SPM2022　国際洞窟写真ミーティング

Reporting SPM2022 "International Speleo Photo Meeting"

吉田 勝次 (Katsuji YOSHIDA　Japan Exploration Team 所属　愛知県在住)
近野 由利子 (Yuriko CHIKANO　Japan Exploration Team 所属　大阪府在住)

はじめに

2022 年のゴールデンウィーク期間に、フランス・ロゼール県シャナック (Lozère, Chanac) にて開催された、国際洞窟写真ミーティングに参加しました。

このミーティングの内容は、世界各国から洞窟写真家とそのアシスタントが集まり、開催地周辺の洞窟を毎日撮影して回り、最終日には撮影した写真を持ち寄り、地元の住民も招待して発表会を開催するというものです。

撮影場所として選ばれる洞窟は、写真撮影のステージにふさわしい特徴のある洞窟ばかりで、写真撮影に興味のないケイバーにとっても興味深いイベントです。

前回、2016 年 9 月スペイン・ブルゴスで開催された SPM2016 の第 2 回目として、4 年後の 2020 年に予定されていましたが、コロナの蔓延によって開催が延期されていたところ、ようやく今年開催が決定したものです。

最初の参加募集は、2021 年 12 月ごろで、当時は日本では海外渡航は考えられない時期でした。しかし、開催日が近づいた 2022 年はじめには、欧州ではすでに渡航制限が緩和されており、日本でもちょうどワクチン 3 回接種者は帰国後の隔離免除が決まったところで、世界的に感染も収まっていた時期ということもあり、情勢を総合的に判断して参加を決めました。

今回は、11 か国から 54 人 (14 チーム) が参加しました。なお、2016 年の開催時には、日本からは 2 チーム (東京スペレオクラブ他から 3 名、Japan Exploration Team 他から 4 名) が参加しましたが、今回は日本からの参加は私たちだけでした。

SPM2022 について

SPM2022 (SPELEO PHOTO MEETING 2022)
日　程 :2022 年 5 月 1 日 (日)~8 日 (日)
開 催 地 : フランス・ロゼール県シャナック (Lozère, Chanac)
スケジュール :

5/1　会場 Holiday Village Chanac に参加者集合。説明会と夕食。
5/2　撮影日。日本チームは「アベン・ドゥ・ラ・バレル」にて撮影
5/3　撮影日。日本チームは「タンタイユ」にて撮影。
5/4　撮影日。日本チームは「マラベル・ブランシェ」にて撮影。
5/5　休日。シャナック近郊ツアー。
5/6　撮影日。日本チームは「カステル・ブーク 1」「カステル・ブーク 4」にて撮影。
5/7　ランチ会。夕方に写真発表会。
5/8　記念撮影の後、解散。

参加費は、1 人 420 ユーロで、宿泊費、食費、休日に近郊でのアクティビティにかかる費用が含まれています。
参加者の募集は、SNS 上の SPM アカウントとホームページから行われました。

地元の Quezac というミネラルウォーターのメーカーがスポンサーとなり、会期中は Quezac の水が飲み放題でした。そのかわり、各チームが Quezac の水をテーマにした写真を 1 枚は撮影すること、というのがノルマになっていました。そのほかのスポンサーは、ギアメーカーの Petzl、ハイパワーヘッドライトのメーカーの Lampe Meandre で、最終日の発表会では受賞チームに各社から賞品が提供されました。

COVID19 関連の入出国手続きについて

●日本からフランスへの入国時の規制無し
・EU 内での移動証明のような EU Digital Passenger Locator Form というデジタル証明書があったので登録したけれど、提示の要求はありませんでした。
・フランス国内では、電車の駅構内と車内ではマスク着用が義務だが、そのほかの場所ではマスク着用は自由。町でマスクをする人は少なかったです。
●フランスから日本への入国時 (渡航先によって対応は異なる)
・フランスから出国する 72 時間前に PCR 検査を受け、決められた書面で、医師によるサイン入りの陰性証明書をもらうこと。
・日本発行のワクチン接種証明 (英語) か、陰性証明を持っていること : ワクチン 3 回接種済みなら自己隔離不要、それ以外は指定の自己隔離を行う。
・MySOS というアプリでファストトラックを登録したほうが入国時の手続きが早く進みます (状況による)。

5 月 1 日 (日)　初日

初日は移動日となりました。

今回、会場はフランスの南端に位置するため、フランス国内便を利用して、近くの空港まで行ったほうが、運転する距離は短くなったのだが、いろいろと理由があって、フランス首都、パリのシャルルドゴール空港からレンタカーで移動しました。

その理由とは、①日本に入国するための陰性証明書の入手問題、②撮影機材が山のようにあって、国内便だと超過料金が怖かった、③国内線が高価で、乗り換えの接続が悪かった、ということ。

パリはフランス北部にあるので、目的地までは約 600 ㎞、フランスを軽く縦断する形となったが、立派な高速道